

区分		No.	コメント			回答	備考
			開催回	日付	内容		
地下構造評価 地震発生層の設定	資料構成	1	1199回	2023.10.20	各種の検討に際しては、検討方針を示したうえで、検討・評価を行い、その結果を踏まえた内容を結論に記載すること。		
地下構造評価 地震発生層の設定	資料構成	2	1199回	2023.10.20	地震動評価の3要素(震源特性・伝播特性・増幅特性)の観点から、各種の調査・検討がどの要素と対応しているのか分かるように資料に記載すること。		
地下構造評価	資料構成	3	1199回	2023.10.20	解放基盤表面及び地震基盤面の設定は、地下構造モデルの設定の前提となることから、解放基盤表面の設定については、1.1節の地質・地質構造の調査において説明すること。また、地震基盤面の設定についても、解放基盤表面の設定と同様に、項目立てして、1章で説明すること。		
地下構造評価	敷地の地質・地質構造	4	1199回	2023.10.20	大深度ボーリング2孔(D-8.6孔及びK-13.6孔)の花崗岩上面の高度差が約180mであるとの調査結果を踏まえ、花崗岩上面の形状を考察したうえで、高度差が地震動へ与える影響について検討すること。		
地下構造評価	敷地の地質・地質構造	5	1199回	2023.10.20	第3'速度層・第4'速度層の影響検討について、地震動シミュレーションの検討結果に、地震観測記録を用いた検討結果も含めて、総合的に検討を行う方針を示したうえで、地震動へ与える影響の有無を示すこと。		
地下構造評価	地震波トモグラフィ	6	1199回	2023.10.20	Matsubara et al.(2022)の速度構造による地下構造の成層性及び均質性の検討においては、1-1'断面及び2-2'断面以外の断面も確認すること。		
地下構造評価	単点微動探査 観測記録による 地下構造の検討	7	1199回	2023.10.20	敷地の単点微動探査と水平アレー地震観測による検討結果の整合性について記載すること。		
地下構造評価	観測記録による 地下構造の検討	8	1199回	2023.10.20	地震観測記録を用いた到来方向の検討について、到来方向を東西南北の4方位で検討しているが、方位を適切に区分して検討すること。また、検討に用いる地震数が少なくなる場合は、検討精度を確保できる範囲で用いる地震の拡充を検討すること。		

区分		No.	コメント			回答	備考
			開催回	日付	内容		
地下構造評価	観測記録による地下構造の検討	9	1199回	2023.10.20	地震観測記録を用いた到来方向の検討について、応答スペクトル比がわかりやすくなるように、応答スペクトル比の図の縦軸を適正化すること。		
地下構造評価	観測記録による地下構造の検討	10	1199回	2023.10.20	深度別の応答スペクトルにおいて、周期0.2秒程度より短周期側では、岩盤中においてはほとんど増幅がみられないとしているが、例えばEW方向の周期0.2秒から0.5秒で増幅がみられること等の特徴について、地震動に与える影響を考察すること。		
地下構造評価	観測記録による地下構造の検討	11	1199回	2023.10.20	地下構造モデルの地盤増幅特性の妥当性確認について、地震観測記録を直接用いた検討を行うこと。		
地震発生層の設定	広域的な地震の震源分布の調査	12	1199回	2023.10.20	能登半島周辺の地震の震源深さ分布について、断面図にプロットした2007年能登半島地震の震源域の平面的な範囲を確認するため、図中の矢視方向の直角方向からの深さ分布も示すこと。また、能登半島周辺のD10%・D90%について、2007年能登半島地震の震源域の震源データを除いたD10%・D90%を示すこと。		
地震発生層の設定	広域的な地震の震源分布の調査	13	1199回	2023.10.20	2007年能登半島地震発生日前後の震源深さ分布図について、2007年能登半島地震の震源域の震源が、発生日前に比べて発生日後に浅くなっている。他の断層でも同様なことが起きるのか検討すること。		
地震発生層の設定	地震調査研究推進本部の主要活断層帯に係る知見による検討	14	1199回	2023.10.20	邑知潟断層帯の地震発生層上端深さ及び砺波平野断層帯・呉羽山断層帯の地震発生層下端深さについて、地震調査研究推進本部の評価（邑知潟断層帯は2020、砺波平野断層帯・呉羽山断層帯は2004）を踏まえても、設定した地震発生層3km～18kmが妥当であるか科学的に説明すること。		
地震発生層の設定	地震調査研究推進本部の主要活断層帯に係る知見による検討	15	1199回	2023.10.20	邑知潟断層帯のD10%の検討に際しては、邑知潟断層帯と関連のない2007年能登半島地震等の震源データの影響がないよう、適切な範囲で再検討すること。		
地震発生層の設定	地震発生層の設定	16	1199回	2023.10.20	敷地周辺において設定した地震発生層（上端深さ3km・下端深さ18km）と異なる地震発生層を設定する断層については、その断層名及び地震発生層の設定値を明示すること。		